

## 保育における出席ノートへの 「シール貼り活動」の意義に関する研究

財満由美子<sup>1</sup>・島津 礼子<sup>2</sup>・劉原 婧璇<sup>1</sup>  
笠井 雄介<sup>1</sup>・程 美玲<sup>1</sup>・楊 世妍<sup>1</sup>

### The Role of Putting Stickers into the Individual Child Attendance Notebooks in a Kindergarten

Yumiko ZAIMA<sup>1</sup>, Reiko SHIMAZU<sup>2</sup>, Riu YUANJINGXUAN<sup>1</sup>,  
Yusuke KASAI<sup>1</sup>, Chen MEILIN<sup>1</sup>, Yang SHIYAN<sup>1</sup>

**Abstract:** The purpose of this paper is to establish the role of putting stickers into the individual child attendance notebooks in a kindergarten. The act of putting stickers into the individual child attendance notebooks is unique to Japanese kindergartens and nursery schools. In this study, we observed 3~5 years old children using their individual child attendance notebooks and also obtained data by means of the questionnaires to the class teachers. Our results show that its roles are not only for checking children's attendance in kindergartens but also the child attendance notebooks 1) work as a kind of teaching material, 2) help children form relationships with their teachers and peers, 3) help them adjust mentally to their surroundings, and 4) teach them about the daily routines within the kindergarten.

**Key Words:** putting stickers, individual child attendance notebook, routine

#### I. 研究の目的

本研究の目的は、保育施設、幼児教育施設において行われている出席ノートへのシール貼りの意義について考察することである。出席ノートにその日登園した証として幼児自らがシールを貼るという活動（以下、「シール貼り活動」と表す）は、多くの保育施設、幼児教育施設において行われている活動であり、小学校以上の学校種では見られず、保育施設、幼児教育施設特有の活動であるといえる。

出席ノートに類するものは、教材販売会社F社より1938年(昭和7年)に発売が開始されており、その時の名称は「出席奨励カード」というものであった。「出席奨励カード」の発売当初は、

カードに判子を押す方法と、シールの前身である貼紙を貼る方法の二種類があった。国の幼児教育振興計画のもと、幼稚園・保育所に就園する幼児数の増加と共に、各教材販売会社は出席カード、おたより帳、れんらくちょう等の名称で販売を拡張させていった。現在、これらの出席ノートは、幼児が使用することを踏まえて、インクに植物性のものを使用する等の安全性に対する配慮、ノート本体の丈夫さ、小学校との連携を考慮した書体の工夫等がなされている。「シール貼り活動」は、自分の靴の履き替えや着替え、持ち物（水筒、タオル、カバン等）を所定の場所に置くなどの一連の行為とともに、登園時の規定された保育活動（ルーティン）の一部として捉えている施設もある。

「シール貼り活動」を登園時に行っているF幼稚園の出席ノートおよび「シール貼り活動」

1 広島大学大学院教育学研究科博士課程前期  
2 広島大学大学院教育学研究科博士課程後期

には、各クラスに以下のような特徴が見られた。

- ①出席ノートは手の平サイズのノート状のもので、毎日持参し、シールを貼る形式になっている(図1)。月末には大きな「ご褒美シール」を担当に貼ってもらい、担任からのコメントが添えられる。
- ②シールには月別に6種類のイラストがあり、幼児が自由にシールを選べるようになっている(図2)。
- ③登園時のルーティンである水筒とタオルを所定の場所に置くという動作とともに、シール貼り活動を行っている。
- ④各クラスの担任が、幼児の発達、興味関心、ねらい、素材等を考慮して出席ノートを保育用品の一つとして選定しているため、使用されている出席ノートにはクラスによる違いが見られる。

本研究では、この出席ノートへシールを貼る活動に着目し、保育者が保育に「シール貼り活動」を取り入れている意図を質問紙調査により明らかにするとともに、「シール貼り活動」の保育における意義を考察する。「シール貼り活動」について考察することにより、幼児自らがシールを貼ることの意味を再考し、より効果的な保育者の働きかけや保育室の環境構成の方法を考えていく一助になると考える。

「シール貼り活動」を対象とした先行研究は極めて少なく、管見の限り、生活習慣や身辺整理が習慣化しにくい幼児に対して、シールを貼る場所を変化させることにより、朝の身支度がスムーズにいったという報告(佐藤・七木田, 2009)がなされているのみである。一方、ルーティンに関する先行研究には、ルーティンを日常認知の発達との関係から捉えたもの(青木・無藤, 1994)、3歳児の観察により、ルーティン生成の過程を検討したもの(鈴木・岩立, 2010)などがある。これに対し本研究では、3、4、5歳児の「シール貼り活動」を縦断的に観察し、青木・無藤(1994)が示したルーティンの持つ時間、空間、活動内容という3つの側面に加えて、保育者や園児同士の関わりという人的側面についても考察を試みた。

なお、本稿では、出席ノート、おたより帳、出席カードなどとも呼ばれるカレンダーにシールを貼る形式を含むノートについて、出席ノートと表記することとする。

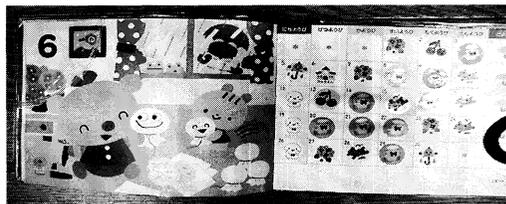


図1 出席ノートの一例

日曜日から始まり、土曜日で終わるカレンダータイプ  
生活と密着した内容のイラスト

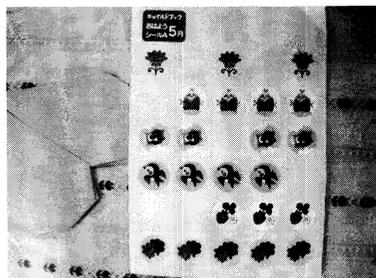


図2 出席ノートに貼るシールの一例

月別に6種類のイラストがある

## II. 研究の方法と結果

観察園であるF幼稚園は各学年1クラス編成で、園児数は、3歳児クラス20名、4歳児クラス35名、5歳児クラス35名である。それぞれのクラスには、担任および副担任の2名の教諭が保育にあたっている。また観察年度には、4歳児クラスに非常勤の特別加配教員が配置されていた。

観察に先立ち、保育者がどのような目的を持って「シール貼り活動」を保育に取り入れ、そのための環境構成を行っているかを明らかにするために、各クラス担任および特別加配教員を対象に質問紙調査を行った。各クラス担任および特別加配教員に、執筆者のうち1名が質問紙を配布し、1週間後に回収した。質問紙の内容については、参考資料として文末に示す。また、この質問紙の回答の結果を質問項目に沿ってまとめたものが表1である。

保育者に対する質問紙調査の回答から、次のことが明らかになった。

- ①保育者は、「シール貼り活動」の目的として、
  - 1) 幼児が幼稚園に来たことへの証や確認、
  - 2) 月日・曜日・季節等の感覚の習得、
  - 3) 手指の巧緻性の獲得、
  - 4) 登園から園生活に入るための活動(アンケートでは、「園生活の始まりにおける、リズムづけ」と表現されて

表1 クラス担任への質問紙調査のまとめ

保育者	担当	経験年数	ねらい	配慮点	環境構成	エピソード
A	3歳児	20	数字に関心を持つ月日の流れを感じる指先が器用になる	全員がきちんと貼っているか確かめる	丸い机で顔を突き合わせて、話しながら貼ることができる	最初は貼るだけだったが、次第にきれいに貼ろうとするようになる 同じ絵や、友だちと同じシールを選ぶ
B	3歳児	6	幼稚園にきた時の楽しみのひとつ	シールを貼る場所がわかりやすいよう、貼る位置が一方に並んでいる出席ノートを選定した	身支度の順番の中で、やりやすいように配置している	
C	4歳児	1	月日・曜日の感覚を獲得するために有効		シールを貼る机を保育室の入り口近くに配置 子どもが立ったままで貼しやすい高さで、数人が同時に貼れる広さを持つ机を使用	
D	4歳児	7	毎日園にきたことの証数字や日にちに親しむシールを貼る、はがすなどの行為による巧緻性の獲得		保育室の入り口近くに机を常設 4月には広さが必要なため、追加の机を設置する	全く違うページに、シールが貼ってあることがある
E	4歳児	2	園生活の始まりにおけるリズムづけシールが増えていく喜び	自分で貼ることができるよう援助する	保育室の入り口近くに配置 人数が多い時は、追加の机を使用	同じシールを集めて貼り、「今日も貼ったよ」と嬉しそうに見せに来る
F	5歳児	18	その子が今日も幼稚園にきたことを確認し、今日の生活に期待を持つ	シールを貼ること自体に特に配慮はしていない	登園時の動線上、一番良いと思われる位置に置く	
G	5歳児	5	(年少のクラス)指先を使うことによる巧緻性の獲得 (年長のクラス)季節感を感じる「行事まであと何日」など月日の感覚を養う	園を休んだ次の日などに、シールを貼る場所がずれないように声を掛ける 朝の挨拶をした後の、会話のきっかけとなる	保育室の入り口近くに机を配置 日にちがわかる日めくりカレンダーと、行事の予定がわかるカレンダーをそばに貼る シールは、籠に入れて取りやすくする	全て同じ絵にする、縦に絵をそろえる、毎日変える、全く気にしないなど、子どもによって違いがある 子どもにとって分かりにくい絵のシールは、人気がなく残る

いる)の4つを挙げている。

- ②「シール貼り活動」に関して保育者が配慮している点は次のような点である。3歳児では、シール貼りができているかどうか確認することや、言葉かけについてである。4歳児では、自分で貼れるように支える援助がなされている。5歳児では朝の会話のきっかけとなるよう配慮されている。
- ③環境構成では、全クラスとも、シールを貼る机の場所は幼児が登園して保育室に入った場所に位置している。3歳児は低い円形テーブルの周りに座ってシールを貼ることができる環境構成となっており、4歳児では込み合った場合に備えて追加の机が用意されている。5歳児では机の前面にカレンダーをはり、そ

の月の予定を確認しながらシールを貼ることができるようになってきている。4歳児と5歳児は、立ってシール貼りを行っている。

- ④自由記述として、「シール貼り活動」に関するエピソードについて記載してもらったところ、以下のような回答が得られた。1) 同じ種類のシールだけを貼る、2) 縦に同じ模様のシールを揃えて貼る、3) 毎日シールの模様を変える等である。これらのエピソードからそれぞれの幼児が工夫やこだわりを持って、「シール貼り活動」を行っていることが明らかとなった。

質問紙により得られた保育者の回答から、幼児の年齢により、保育における出席ノートへの「シール貼り活動」の意義や役割は異なるとい

う仮説を設定した。この仮説を検証するため、観察対象および観察方法について、下記のように設定した。

観察対象：3歳児・4歳児・5歳児

観察場所：F幼稚園

各クラスの保育室

「シールを貼り活動」を行う場所

観察日：2011年5月・6月の計5日

観察時間：午前8時45分～午前9時45分  
(合計5時間)

観察方法：自然観察

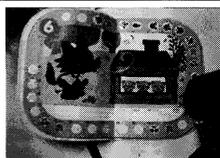
筆記およびデジタル・カメラにより記録

分析方法：全てのデータを執筆者全員でエピソード化した結果、33の事例が得られた。それらを、執筆者のうち2名がKJ法の手順に従って分析し、図解化した。

### Ⅲ. シール貼り活動の観察事例

各クラスの担任が選定した出席ノートと、保育室におけるシールを貼る場所の環境構成、登園時のルーティンにおける順序は図3、5、7に示す通りであった。

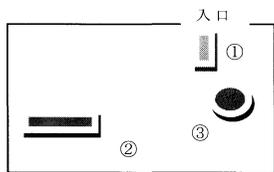
#### 3歳児



- ・イラストの周囲に一方方向にシールを貼る形式
- ・イラストは親しみのあるお話の絵



- ・カバン置き場の横に低い円形テーブルを設置
- ・シール貼りの見本が置かれている



保育室の配置とルーティンの順序

- ① 水筒
- ② タオル
- ③ シール貼り

図3 3歳児の「シール貼り活動」の環境構成とルーティンの順序

3歳児のクラスでは、1)水筒を籠に入れる、2)タオルをかける、3)「シール貼り活動」、という順序が保育者によって決められている。

しかし、観察によって、子どもたちは必ずしもその順序を守っているわけではないことが明らかとなった。1)水筒を籠に入れる、2)「シール貼り活動」、3)タオルをかける、という順序となっている子もいた。3歳児の観察により、11のエピソードが得られた。その中で時間、空間、活動内容、人との関係性の観点に沿った4事例を次に示す。

#### 【観察事例】

- ①保育室の入口で、担任が子どもたちを出迎えている。副担任の保育者が、円形テーブルの前に座って子どもがシールを貼る様子を見ながら「雨だったね、元気?」「支度が速かったね」等、一人ひとりの幼児に声をかけている。(5月12日)
- ②登園後、先生から「おはよう」と声をかけられて、出席ノートを出した幼児Aは、貼るページを開いたが、どこに貼るのか迷っていた。その様子に保育者が気づき「ここよ、今日は19日だから」と教えた。Aは保育者の言葉に、「うん。そうだね」と言いながらシールを貼った。保育者は「今日も元気に幼稚園に来たね」と言いながらAの頭をなでる。Aはシールを貼り終わるとカバンを置き、園庭に出て行った。(5月19日)
- ③保育者に「26日、ここよ」と言われ、幼児はその場所にシールを貼り、小さい声で「26」「26」と復唱していた。(5月26日)
- ④「今日はどこ?」という幼児の質問に、保育者は「1と6」と言い、出席ノートのイラストを指して「ちゃん ちゃんどぼん」「おいけにどぼん」「かえるがどぼん」など、擬態語を使ったりリズムをつけて歌っていた。(6月16日)

入園間もないこの時期に、ほとんどの3歳児はシールをどこに貼ってよいのかわからない(事例②③④)。そのため個別な対応が必要となるが、そのことが保育者との関係を築く役割を果たしていると考えられる。また、登園してすぐ行われる活動であるシール貼りの際に声をかけてくれる保育者は、幼児にとって親と離れて不安になっている気持ちを和ませてくれ、信頼を寄せられる他者の存在となっている(事例①②④)。

3歳児にとって出席ノートは、初めて手にする自分のためのノートであり、貼ったシールが

増えていくことは、達成感や自己肯定感が感じられるものであると言えるだろう。「シール貼り活動」を通して保育者との信頼関係を築くとともに、達成感、自己肯定感を感じることが、園児の園環境への適応を促していると考えられる(事例②)。

3歳児の観察により得た全てのエピソードをKJ法により分析し、「保育者との会話」「家庭との切り替え」「シールが増える喜び」「達成感・自己肯定感」「数字に親しむ」「学び」「園環境への適応」という、7つのグループを作成した。これらのグループを図解化したものを図4に示す。

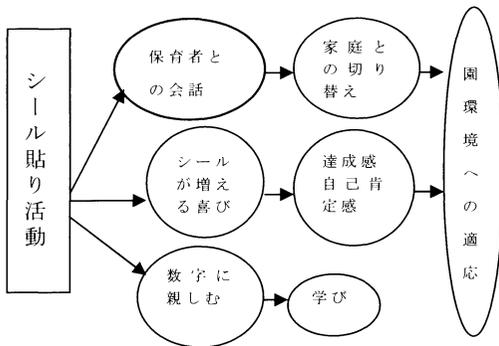


図4 3歳児の「シール貼り活動」の図解

4歳児

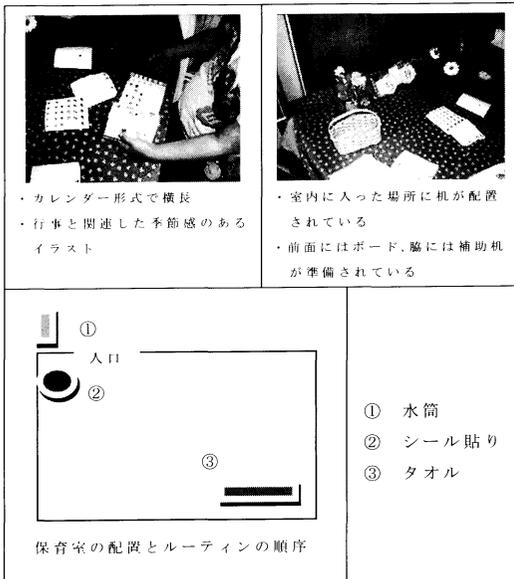


図5 4歳児の「シール貼り活動」の環境構成とルーティンの順序

4歳児クラスでは、ほとんどの子どもが1)水筒を籠に入れる2)「シール貼り活動」3)タオルをかける、という順序でルーティンを行っていた。これは図5に示すように、クラスの物の設置位置に関係があると考えられる。保育室に入った場所にシール貼りをを行う机が用意されているため、幼児は必然的に水筒を籠に入れた後、シールを貼るという順序でルーティンを行っていた。この順序は、保育者が決めたものではないが、幼児は自分の考え、都合によって動線の一番短くて合理的な順序でルーティンをしていることが伺える。4歳児の観察により得られた11事例のうち、3歳児と同じ観点に沿った9事例を次に示す。

【観察事例】

- ⑤シール貼りの時、机を挟んで友だちと顔を合わせながら、話をしている。  
 幼児A「私シール貼ったよ」  
 幼児B「うん、俺も、ほら、違うんじゃない」(見間違えた)  
 幼児Aは「どこが違うの」  
 幼児B「今日は木曜日だよ」  
 幼児A「そうよ、見てよ、木曜日のところでしょう」と指差して言った。
- ⑥幼児C「今日は木曜日、僕、カエルいっぱいはとるんよ」友だちのシールと自分のシールを指で指しながら数え、「これ、一緒じゃ」  
 幼児D「うん。一緒」  
 幼児E「今日はこれ！」貼っているのを友達に見せる。「これ、Fちゃんと同じ」  
 幼児G「今日は何シール？」  
 幼児H「カエル」(聞いて自分も同じシールを貼る)  
 幼児J「おれ、かたつむり」  
 幼児K「おれ ぶどう」  
 幼児L「時計ばかり」と言って自分の出席ノートを友だちに見せる
- ⑦幼児M「今日はIちゃんのとこへいくの。T君のところへは行けん」(降園後の遊びの約束)
- ⑧幼児N「今日は9、昨日は8だったでしょ？忘れてた」(昨日貼るのを忘れていたことに気づき貼る)(以上、6月9日)
- ⑨幼児M「満員です」(いっぱい人がいるので待つ)  
 机の周りの幼児が混雑してきたら「貼れ

た?」「貼れたら変わってあげようね」と保育者が声掛けをする。また、そばにある予備の机を出し、混雑を緩和させている。

- ⑩幼児Fは「1と9よね」と言いながら「1と9」「1と9」と復唱しつつシールを貼っている。保育者は、幼児Fに「Dちゃんに教えてあげてね」と少し離れた場所から声をかけている。保育者の言われたことを気にしている様子で幼児Fは幼児Dに「1と9」を指さして教えている。しかし、幼児Dは気にしていない様子でシールを貼っていた。(以上、5月19日)
- ⑪幼児H「今日どこ?何日?」近くの友達の応答がなかった。首を外に向けて「先生、今日、2と3?」と尋ねる。保育者が「うん、2と3」と応える。幼児M「先生、今日どこ?」保育者は「ここみて」と、カレンダーの数字を示す。「同じところ、2と3よ」
- ⑫幼児K「今日は23日か。今日23日?」保育者が「そう。23日!」と応える。(以上、6月23日)
- ⑬幼児Tはシールを貼る時、家から作ってきたギター(紙製の製作物)を出席ノートと一緒に出す。同じ場にいた男児2名に「そんなのギターじゃないよ!」と言われた。保育者はすぐやってきて、「いいね。お母さんと一緒に作ったの?」と声をかけ、しばらく幼児Tの目線で作ってきたギターの話をする。幼児Tはシールを貼った後、しばらくギターを持って遊んでいたが、その後、保育者は前面のボードにそれを貼った。その後、幼児Tは、シールを貼り身支度を整え戸外に出て行った。(6月9日)

観察事例から、4歳児では曜日にも関心が向いていることがわかる(事例⑤⑥)。また、前日が何日かということにも気付いている(事例⑧)。さらに、23日を2と3に分けて理解している幼児もいれば、23という数字で理解している幼児もあり、多様な数字の理解が見られる(事例⑩⑪⑫)。そのことに対して、保育者は、「23日よ」と、正しい数詞を教えるのではなく、一人ひとりの理解の状況に沿う声掛けをしている(事例⑪と⑫の対比から)。

また、シール貼りをする場所が混雑することもある。これは、シール貼りを介して幼児同士の会話が増えていることを意味している。混雑するため、保育者は補助机の用意をしたり、「変わってあげようね」という声をかけたりするなどの配慮を行っている(事例⑨)。

4歳児で特徴的であったのは、友だちと同じシールを貼っていることである。数種類あるシールの中から選ぶ楽しさに加え、友だちと同じシールを貼ることによる喜びや嬉しさが「同じ」「一緒」という言葉に表れている(事例⑤⑥)。

F幼稚園の特徴の一つとして、4歳児は3歳児からの進級児と4歳児からの入幼児との混合学級であることがあげられる。そのため、幼稚園に通い始めた幼児への配慮が、「シール貼り活動」をする机の前に置かれたボードに表れていた。家庭で作ったものを掲示することにより、その作品を通して幼児は親の姿を感じることでできるスペースとなっている(事例⑬)。

4歳児の観察により得た全てのエピソードをKJ法により分析し、「ルーティン」「園環境への適応」「友だち・保育者との会話」「混雑」「他者理解」「家庭との切り替え」「数字・日付・曜日に親しむ」「学び」という、7つのグループを作成した。これらのグループ図解化したものを図6に示す。

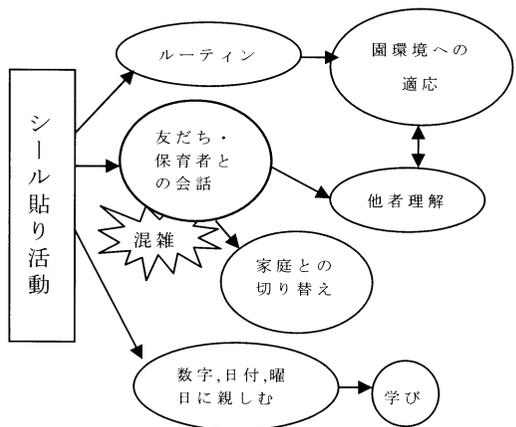


図6 4歳児の「シール貼り活動」の図解

5歳児

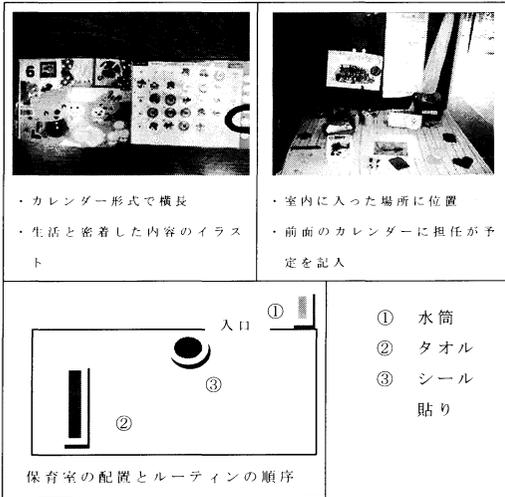


図7 5歳児の「シール貼り」活動の環境構成とルーティンの順序

5歳児クラスでは全員が、1)水筒を籠に入れる2)タオルをかける3)「シール貼り活動」という順序で朝のルーティンを行っていた。5歳児の観察により得られた7事例のうち、同様の観点に沿って2事例を次に示す。

【観察事例】

⑭友だち二人で一緒に登園し、歩きながら言い始めた。

幼児O「森の日はいつか来るかな」  
 幼児P「へえー、わからない、あとで先生に聞いてみようか」  
 幼児O「うん、そうだよ、楽しみだね」と言いながら、保育室に入った。シール貼りをする前に、置いてある日めくりカレンダーを見て、  
 幼児O「来週だ、森の日、来週だ」、  
 幼児P「へえー」、  
 幼児O「ほら、見て、カレンダー、今日は23だから、来週じゃん」と言いながら、23日のところにすぐシールを貼っていた。(6月23日)

⑮(6月最後の日で、出席ノートを提出する日であった)机の上に“出席ノートを入れてね”と書いた紙がついている籠が用意されていた。シールを貼った幼児はそれぞれ籠に入れていた。幼児Qは、今月は31日が無いことに気づいた。

幼児Q「30で終わり」次のページを開き、「海の日だ。休みだ」  
 幼児R「うみ組が来る日(5歳児のクラス名がうみ組である)」  
 幼児S「違うよ。海に行く日」  
 幼児U「泳ぎたいね」など、近くにいる3人の幼児と会話がはずむ。(6月30日)

5歳児では、日付、曜日に加えて、行事がいつあるか等、出席ノートがカレンダーの用途に即した使われ方がなされている(事例⑭⑮)。そのため、シール貼りをを行う机の前面の壁に貼ってある、担任が幼稚園の行事を書き込んだカレンダーと自分の出席ノートのカレンダーとを対比させる姿も見られた。

また、30日で終わる月と31日で終わる月とがあることにも気付いている(事例⑮)。これは、予測する能力の獲得と共に、未来への準備を自分なりに今からしておくという、自己制御能力の育成にもつながっていると考えられる。

5歳児で特徴的なことは、保育者による援助は少なく、一人で「シール貼り活動」をして遊びに行ったり、シールを貼る場が友だち同士の会話をする場になっていたりすることである。そのようなことから、2年または3年間の経験を経て「シール貼り活動」に慣れ、ルーティンとしての性質が強くなっていると言えよう。

5歳児の観察により得た全てのエピソードをKJ法により分析し、「ルーティン」「園環境への適応」「友だちとの会話」「他者理解」「カレンダーや月日の概念」「未来の予測・自己制御力」という6つのグループを作成した。これらのグループを図解化したものを図8に示す。

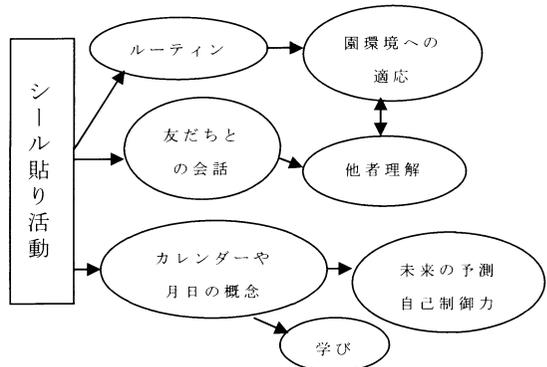


図8 5歳児の「シール貼り活動」の図解

#### IV. 総合考察

3歳児・4歳児・5歳児の観察によって得られたエピソードの分析により、幼児の年齢によって保育における出席ノートへの「シール貼り活動」の意義や役割は異なることが明らかになった。すなわち、3歳児はシール貼り活動を通して、保育者との信頼関係の構築と安定した園生活を送ることの基盤が培われている。また、4歳児では、「シール貼り活動」が友だちとのコミュニケーションの場となっている。一方、5歳児にとっての「シール貼り活動」は、ルーティンの一部としての認識が大きい。

質問紙調査の結果およびKJ法による各クラスの分析結果をまとめると、「関係性の構築」、「学び」、「家庭との気持ちの切り替え」、「規範性の習得」という4つのキーワードが得られた。これを表2に示す。

表2 各クラスの分析結果のまとめ

	関係性の構築	学 び	家庭との気持ちの切り替え	規範性の習得
3歳児	幼児と保育者の会話や保育者のスキンシップが多い	数字に関心を持つ指の巧緻性を高める	保育者の声かけやシールを貼る行為により園に来たことを自覚	園のルーティンに触れる
4歳児	幼児同士や幼児と保育者との会話が多い	月日の概念がわかり始め唱えることで数字に親しむ	幼児同士の関わりから、園に来たことを自覚	ルーティンに慣れる
5歳児	幼児同士の会話は多いもの、保育者との会話は少ない会話の内容が質的に変化	カレンダーや月日の概念、スケジュールに関心を持つ	幼児同士との関わりから、園に来たことを自覚	ルーティンとして定着

以上のことを踏まえ、総合考察として保育における出席ノートへの「シール貼り活動」の意義について以下のように考察した。

第一に、保育者や他の幼児との信頼関係を築く役割である。3歳児や4歳児の観察事例に多く見られるように、「シール貼り活動」は幼児と保育者が向き合う時間となっている。また、4歳児、5歳児では幼児同士の会話や助け合いを促していた。

第二に、教材としての意義である。出席ノートは、3歳児、4歳児、5歳児それぞれにおい

て、数の概念、日付、曜日、予定された行事について触れられるものとなっていた。このことは、榊原(2006)が指摘しているように、出席ノートにシールを貼る活動が園生活に埋め込まれた保育者主導の活動内容となり、幼児の数的発達を促していることを示唆していると言える。

第三に、家庭と園との切り替えスイッチとしての意義である。登園してきた幼児は、どこかで家庭環境と園環境との気持ち切り替えを必要とするが、出席ノートにシールを貼った時も気持ちの切り替えをしている一場面だと考えられる。なぜなら、シールは園に来たことに対するひとつの証であり、自らシールを貼ることによって集団生活の場に来たことを再認識する機会となり得る。

第四に、規範性の習得としての意義である。3歳児では、保育者が決めた順序に従って一連の活動を行うことで、ルーティンに触れている。それは、園の規範性の習得とも繋がっていると考えられる。年齢が上になるにつれて幼児は「シール貼り活動」に慣れ、ルーティンとして自明のものという認識が強くなっていく。それは、幼児が「シール貼り活動」を通して園の規範に慣れていくことを意味している。

このように「シール貼り活動」は、多くの役割や側面を持つ活動であると言えるだろう。考察の結果から、年齢の低いクラスで、「シール貼り活動」に十分な時間と空間、保育者の援助が必要なことが示された。また、幼児の年齢が上がるにつれて、「シール貼り活動」はルーティンとしての性格が強くなっていくことから、年齢が上のクラスでは他のルーティンとの兼ね合いや登園時の幼児の動線を考慮した環境構成が必要となってくる。

本研究では、一幼稚園における登園時の「シール貼り活動」に焦点を当て、検討を行った。しかし、保育全体の中における「シール貼り活動」の役割や、家庭との関連における出席ノートや「シール貼り活動」の意義については未検討であることから、今後の課題としたい。

#### 参考文献

- 青木多寿子・無藤隆(1994) 日常認知の発達理論. 岸本弘他(編) 教育心理学用語辞典, 学文社.
- 文部科学省(2008) 幼稚園教育要領解説. フレーベル館, 91-93.
- 中西さやか・中坪史典・境愛一郎(2012) 子ど

も理解の方法としてのKJ法. 中坪史典(編) 子ども理解のメソドロジー, ナカニシヤ出版, 19-34.

榊原知美 (2006) 幼児の数的発達に対する幼稚園教師の支援と役割: 保育活動の自然観察にもとづく検討. 発達心理学研究, 17(1), 50-61.

榊原知美 (2011) こどもの数の理解を促す「埋め込み型」支援. 発達, 125(32), ミネルヴァ書房, 10-16.

佐藤智恵・七木田敦 (2009) 保育室の環境構成が幼児の活動に与える影響— 一気になる子のカンファレンスより— . 幼年教育研究年報 31, 97-101.

鈴木幸子・岩立京子 (2010) 幼稚園の帰りのあいさつ場面におけるルーティン生成の過程. 保育学研究, 48(2), 74-85.

### 謝 辞

本研究を進めるにあたり, 広島大学の七木田敦教授より論文作成において貴重なご示唆を賜りました。お礼申し上げます。また, 観察の場を提供していただいたF幼稚園の皆様にもこの場を借りて, 感謝の意を表します。

(参考資料) 保育者への質問紙

年 月 日 ( )

本調査は, 広島大学教育学研究科博士課程前期において開設されている, 幼児教育学演習という講義内で行われている「登園時のルーティンワークにおけるシール貼り活動の意義に関する研究」に関する調査です。収集いたしましたデータは研究以外の目的での使用は致しませんので, ご安心ください。ご多忙かと思いますが, 調査にご協力のほど, どうかよろしく願いいたします。

質問1 あなたのプロフィールをお教えてください

担当(何組か)	
経験年数	

質問2 シール貼りの「ねらい」をどのように捉えておられますか

質問3 シール貼り関連で, 園児や保護者の方に対して配慮していることがありますか

質問4 シール貼り周辺の環境(机の配置, シール貼りの場の位置等)は, どのように整えておられますか

質問5 シール帳にまつわるエピソードをご自由にお書きください

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。